

外来化学療法室

1. スタッフ構成

- 吉山 広嗣(消化器外科部長、がん治療センター副センター長、外来化学療法室長)
- 佐竹 洋一郎(総合診療科部長)
- 山下 広恵
- 看護師:15名
- 看護補助者:2名
- 受付事務:1~2名

2. 認定資格取得

資格名	資格取得者
日本看護協会がん化学療法看護認定看護師	山下広恵

3. 運営方針

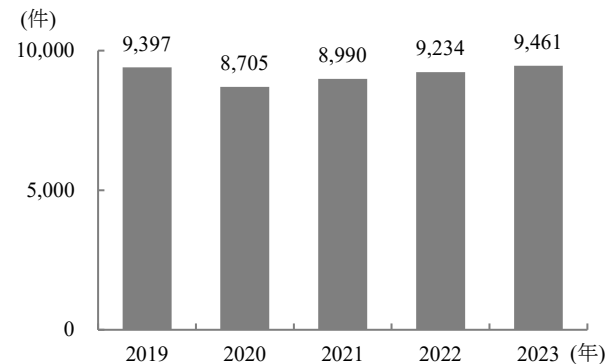
- (1) 質の高いチーム医療のもとに、安全で安心な治療を快適に受けていただけるよう努めます。
- (2) 治療ごとに問題点のスクリーニングを行い、主治医と情報を共有することで、より良い治療や支援、適切な生活支援ができるよう努めます。
- (3) 有害事象への的確かつ迅速な対応で、安全性の高い化学療法を行います。
- (4) 最新情報と専門知識を日々習得し、それに基づいた安全な投与管理を行います。

4. 実績

2005年1月外来化学療法室を開設し、2024年20年目を迎えました。外来化学療法実施件数は開設当初は年間1,713件でしたが次第に増加を認め運用を見直した結果、2020年2月から皮下注射および筋肉注射は診療科での実施に変更しました。総計は一時減少しましたが、その後は増加傾向となり、2023年9,461件(年間で227件増)、患者数1,089人(39人増)でした。

疾患別患者数で最も多かったのは大腸癌218人、次に肺癌150人、膵臓癌114人、乳癌113人、悪性リンパ腫87人、胃癌65人、クローン病41人、胆道癌37人、膀胱癌36人、肝臓癌34人、腎細胞癌32人、頭頸部癌28人の順でした。

■ 外来化学療法実施件数



■ 疾患別患者数

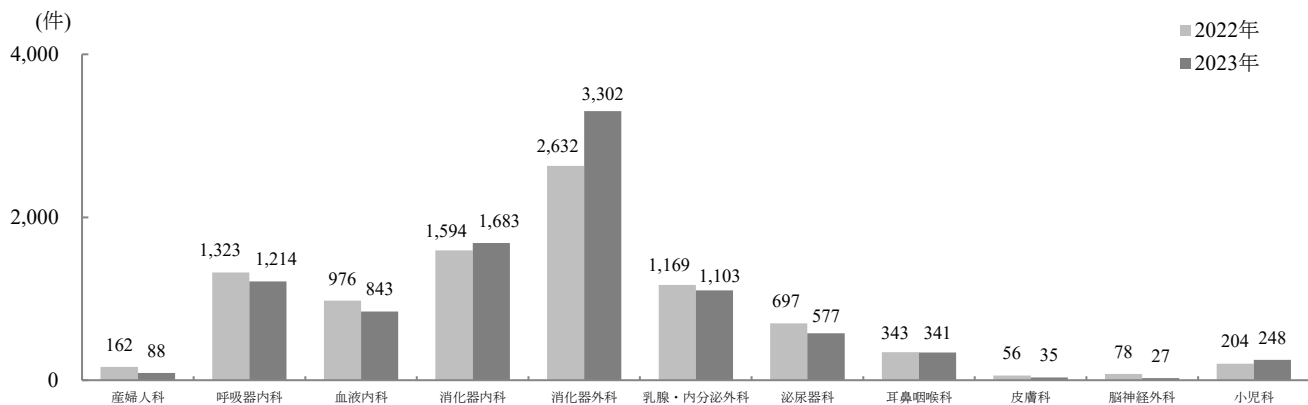
疾患名	2019	2020	2021	2022	2023
肺癌	151	144	149	154	150
胃癌	69	67	62	57	65
大腸癌	212	215	196	200	218
乳癌	137	136	121	121	113
肝臓癌	5	13	35	39	34
膵臓癌	76	78	98	107	114
胆道癌	15	20	25	27	37
食道癌	6	10	15	12	15
悪性リンパ腫	89	106	94	88	87
多発性骨髄腫	48	43	25	25	21
白血病	11	11	10	2	0
骨髄異形性症候群	6	1	1	1	0
卵巣・子宮・腹膜癌	26	21	18	13	10
前立腺癌	14	15	11	17	16
腎細胞癌	20	22	26	29	32
尿路上皮癌	6	6	6	6	7
膀胱癌	28	18	19	26	36
頭頸部癌	20	19	27	26	28
脳腫瘍	13	7	10	8	4
潰瘍性大腸炎	6	9	10	12	14
クローン病	24	29	37	41	41
若年性突発性関節炎	4	5	8	10	14
関節リウマチ	1	5	2	1	0
その他	27	22	24	28	33
合計	1,014	1,022	1,029	1,050	1,089

※1)2019年は免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大、小児科導入等により、多様な疾患の治療が増加

※2)その他の疾患は、キャスルマン病、血管肉腫、パーチェット病、悪性黒色腫、悪性中皮腫、特発性血小板減少性紫斑病等

実施件数の多かった診療科は消化器外科3,302件、消化器内科1,683件で消化器外科・内科で52.7%の実施でした。続いて呼吸器内科1,214件、乳腺内分泌外科1,103件でした。特に増加していたのは消化器外科で670件増、消化器内科、小児科も増加していました。

■ 診療科別実施件数



■ 診療科別主な実施レジメン(2023 年)

レジメン名	
血液内科	Rituximab 療法、R-CHOP、Pola-R-CHP、Pola-BR、A-AVD 療法、A+CHP、(R-)GDP、ガザイバ、サークリサ、エムブリシディ、KRd 療法、アクテムラ
呼吸器内科	ペムブロリズマブ、デュルバルマブ、ニボルマブ、アテゾリズマブ、CDDP+VNR(short hydration)、CBDCA+(PEM+Pembrolizumab or nab-PTX+Pembrolizumab)、CBDCA+(ETP or ETP-Atezolizumab or アブラキサン or ペメトレキセド)、DTX、RAM+DTX 併用療法、IVCYC(IP)
消化器内科・消化器外科	wPTX、GEM+シスプラチン+S-1、GEM、ニボルマブ、SOX+(ニボルマブ or トラスツズマブ)、ニボルマブ+mFOLFOX6、エンハーツ、RAM+PTX 併用療法、GEM+nab-PTX、FOLFIRINOX、オニパイト+5FU/LV、アテゾリズマブ/ペバシズマブ、デュルバルマブ+GC、トレメリムマブ+デュルバルマブ、レミケード、治験
産婦人科	M-TC、W-TC、GC+BEV、ドキシル、WeeklyTN、ペムブロリズマブ
乳腺・内分泌外科	CBDCA+PTX+Pembrolizumab、CE、dd-CE、dd-PTX、DTX、wPTX、TC、トラスツズマブ、トラスツズマブ-パージェタ-DTX、トラスツズマブ+PTX、アバスチン+パクリタキセル、ハラヴェン、カドサイラ、エンハーツ
泌尿器科	GC 療法、GCa 療法、DTX、カバジタキセル、アキシチニブ+(ペムブロリズマブ or アベルマブ)、ペムブロリズマブ、ニボルマブ、エンホルツマブ ベドチン
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頭頸部癌 Cmax+パクリタキセル、トラスツズマブ+DTX、ペムブロリズマブ、ニボルマブ
皮膚科	ニボルマブ、パクリタキセル
脳神経外科	アバスチン+TMZ
小児科	レミケード、アクテムラ、ベンリスタ、オレンシア

診療科別の主な実施レジメンでは、複数の診療科において複合免疫療法のレジメンが増加しています。患者年齢分布では 60～100 歳の患者が 77.1%を占め、特に 80 歳以上の患者の増加でさらなる高齢化となっています。

■ 年齢別患者数

年齢(歳)	2021	2022	2023
0-9	4	5	4
10-19	21	21	30
20-29	23	19	14
30-39	16	23	23
40-49	70	59	58

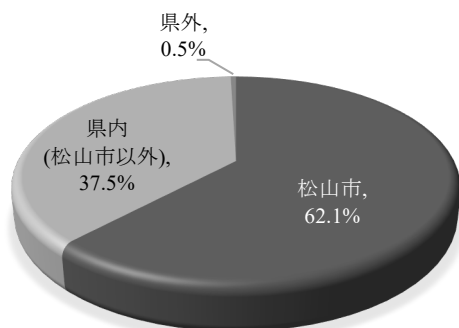
50-59	134	124	120
60-69	273	251	261
70-79	393	405	421
80-89	90	142	150
90-100	5	1	8
合計	1,029	1,050	1,089
平均年齢	64.8	66.1	66.4

患者居住地域では広範囲な地域からの通院が多く、治療期から医療・看護・介護について地域との連携を視野に入れた、多職種での病診連携が重要であると考えます。

■ 居住地別患者数

地域	患者数	地域	患者数
松山市	676	大洲市	34
松前町	72	八幡浜市	35
砥部町	32	伊方町	12
伊予市	74	西予市	14
四国中央市	8	宇和島市	8
新居浜市	13	愛南町	10
西条市	20	鬼北町	2
今治市	34	高知県	2
久万高原町	9	徳島県	2
東温市	11	香川県	1
内子町	20		
合計			1,089

■ 居住地別患者数割合



■ 外来化学療法室の運営状況

項目	2019	2020	2021	2022	2023
年間 実施件数	9,397 件	8,705 件	8,990 件	9,234 件	9,461 件
月別 実施件数	700～876 件	606～836 件	689～827 件	693～826 件	722～917 件
日別 件数中央値 (最小～最大)	37.9 件 (16～79)	35.0 件 (10～73)	34.9 件 (13～65)	36.5 件 (20～67)	37.3 件 (15～64)
年間利用患者数	1,014 人	1,022 人	1,029 人	1,050 人	1,089 人
患者平均年齢 (最小～最大)	65.2 歳 (4～97)	65.5 歳 (4～97)	64.8 歳 (5～98)	66.1 歳 (6～99)	66.4 歳 (7～100)
年間新規患者数	488 人	472 人	453 人	465 人	494 人
アレルギー/ 輸注反応出現数	13 件(Grade 1-2)	16 件(Grade 1-2)	16 件(Grade 1-2)	25 件(Grade 1-2) 9 月～6 件(Grade 1-2)	67 件(Grade 1-2) 2 件(Grade 1)
スタッフ体制	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:9.83 人 (専任看護師:4 人) 看護補助者:1～2 人 受付事務:1～2 人	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:11.8 人 (専任看護師:5 人) 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:4 人) 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:6 人) 病棟アシスタント:1 人 10 月～看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:12.1 人 (専任看護師:5 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人

< 化学療法室運用の変遷 >

- ・ 2005年1月:開設 8床
- ・ 2013年5月:新病院 病床20床+処置室兼用診察室 2床
- ・ 2013年7月:ホルモン薬皮下・筋肉注射導入
- ・ 2014年6月:診療報酬改定に伴い診療科に戻る
- ・ 2016年2月:免疫チェックポイント阻害薬開始、複数診療科で使用増加
- ・ 2019年10月:小児自己免疫疾患などの治療導入
- ・ 2019年11月:病床20から22床に増床

外来化学療法室は8床で開設しましたが、件数増加に対応するため、2013年5月新病院から20床、2019年11月22床に増床しました。また、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬、治験など新薬が増加し、複雑なレジメンが多くなっており、薬剤師が患者面談を行い、有害事象評価と院外薬局との連携を行うなど、多職種で関わり、安全な投与管理を行っています。

スタッフは医師2人、看護師は随時増減がありますが、現在15人(専任7人、うちがん化学療法看護認定看護師1人・部分休業・育児短時間勤務・会計年度任用職員等)、受付事務1～2人、2017年9月からは看護補助者が配属となり、協働しています。

がん化学療法は、質の向上のため総合的な取り組みが必要とされ、薬剤師の指導が入院から外来へ継続されるようになったことや、栄養指導がいつでも受けられる体制となったことなど、多職種での関わりが重要となってきました。常に患者さんの安全を考えた環境を提供し、個々の状態や継続看護を視野に入れた有害反応対策、生活状況を踏まえたセルフケア支援などについてカンファレンスを行い実践しています。また、薬物アレルギー・輸注反応対策を見直し、緊急時対応方法などの検討を継続しています。実践に活かせるよう化学療法マニュアルを改訂し、医療者がいつでも閲覧できるように化学療法チーム院内ホームページに掲載しています。

- ・ 2020年2月:抗がん薬皮下注射およびホルモン薬筋肉注射は診療科または中央処置室での実施に変更

5. 2024 年度目標

より安全で安心して治療を受けていただける環境を提供し、患者さんの治療と療養生活を支援できるように多職種で情報を共有し、連携して取り組んでいきます。